

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291200059		
法人名	社会福祉法人十字の園		
事業所名	御殿場十字の園 グループホーム笑みの里 富士山ユニット		
所在地	静岡県御殿場市北久原578-3		
自己評価作成日	平成29年11月1日	評価結果市町村受理日	2017/20/20

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/zz/index.php?action_kounyo_u_detail_2016_022_kani=true&lievosvoCd=2291200059-

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日中、玄関等の施錠は行わず、どなたでも気軽に足を運んでいただき、のんびりくつろいで過ごしていただけるよう家庭的で温かい雰囲気作りをこころがけています。
また、日々の生活を通じ”できることは自分で行い””ご利用者同士お互い助け合い””社会生活が安心して送れるよう”ご利用者個々の能力を見極めスタッフが過度に手を出し過ぎず、あくまでもご利用者が主体となり、日々の生活を送っていただけるよう、自分たちのケアを振り返りながらスタッフ一同、より質の高いケアを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

14時まで配置されたパートタイマー職のおかげで好天日の散歩は暮らしに溶け込み、玄関先で職員がせかされている格好からも「喜ぶ人と共に～」との理念実践が垣間見えます。また本部のリフト車輛を借りての遠出外出はムリがなく、山梨まで足を延ばす「ぶどう狩り」をはじめ「いちご狩り」「さくらんぼ狩り」が恒例行事となり、最近は少人数でのおやつ外出で個別対応も増えています。1表、2表が一体化した独自の書面を使用し、居室担当職員が介護計画書を作成しており、モニタリング記載も明瞭で、全職員の介護支援専門員レベルへの到達も見受けられ、職員が編んだ帽子を被る90歳余の利用者の様子を結実の確かさを感じます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に理念を復唱することで、共有と実践に繋げている。	毎朝「法人理念」「御殿場十字の園理念」「法人聖句」を唱和し、会議でもテーマにして意識継続につなげています。玄関先のベンチには散歩に出かける準備の人、靴をはこうとする人とで賑やかで、職員がせかされている格好からも「喜ぶ人と共に～」の実践が垣間見えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は近隣へと散歩に出かけ、近所の方などに挨拶を交わしている。また、毎日の買い物では、ご利用者の知り合いに会ったり、お店の方とも顔馴染み関係ができています。	畑の手入れに尽力くださったり、市場に出さない野菜が月に数回届く等、近所の農家と親しい関係にあります。また正月行事や商店街の夏祭り、神社の秋祭りには利用者を誘って出かけるほか、近隣からは来客者を感嘆させるタペストリー一作品が時節毎に届いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事へと積極的に参加するとともに、日課の散歩や買い物を通じて、地域住民の方と接する機会を設け、理解を深めていただくよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	PowerPointなどを活用し、日々のご利用者の生活の様子や取り組みを報告している。また、会議で挙げた意見は職員会議の場にて、職員に報告し、改善案などを検討している。	「地域の人、家族に運営内容を理解してもらいたい」との想いを以て取組んでいることは、丁寧につくられた会議資料から覗えます。敬老会と併催した回では家族が総勢21名と見事な参会状況で、常にも民生委員、地域包括支援センター、ボランティア等地域から集まってもらえています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービス提供事業所意見交換会などに参加し、当施設の実情を伝えるとともに、市の見守りネットワークへと登録し、行方不明者の捜索などにも協力している。	主に独居の行方不明者の探索に敷いた「御殿場市みくりや安心だねっと」が施設も対象とすることになったのを契機に、事業所でも5名登録、また職員も見守り隊として有事は協力することになっています。市主宰の地域密着型の連絡会にも必ず出席しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はせず、自由に出入りできるようにしている。また、内部研修などを通じ、職員全体で拘束ゼロに向けた取り組みを検討している。	本部の他、事業所独自のマニュアルも用意され、研修も年1回は実施し知識共有は確かです。平均の介護度2.2、年齢86.7歳と元気が漲っていて、係る症状もなくスピーチロックもほとんど見られません。また玄関は利用者が自由に出入りしていて、一軒の家のような雰囲気です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を通じて、虐待に対する理解と防止について学び、日々の業務にあたっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を実施し、日常生活自立支援事業や成年後見制度に関して学ぶ機会を設けているが、それらの制度を活用できるまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に利用料金・リスクマネジメントに関する内容はご家族・ご利用者の方に十分に理解・納得していただけるよう、時間をかけ、丁寧に説明を行うとともに、不明な点は気軽に問い合わせいただけるようお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族へはご利用者の日頃の様子などをこまめにお伝えし、信頼関係が築けるよう努めるとともに、ご家族・ご利用者が意見を言いやすい雰囲気作りにも配慮している。また、玄関には苦情受付箱を設置している。	一般的に家族が気がかりとする「職員異動」は運営推進会議で書面を通じて伝え、明確にしています。また自立支援の一環として洗濯たみと収納を本人にお願いしている事から「他の人があった」という苦言があがり、職員が最終確認をおこなうように改善した例もあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている職員会議を通じて、職員の意見・提案を聞き、全員で検討し質向上への取り組みを行っている。	職員休憩も当初は利用者と一緒に茶話会といった休み方であったのを、現在は利用者から離れた時間をしっかりとる等改善が進んでいます。また本年度から職員の自己評価に360度の他者評価も加わり、より自らの役割を感じる体制へと人事考課制度も高まっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤・非常勤ともに就業規則を整備しており、これを遵守するとともに、ワークライフバランスを意識した育児介護休業規則を制定し、運用している。またさらに各自が意欲的に働けるよう順次見直しを予定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス基準を作成し、各階層別に研修を実施するとともに、資格取得支援など専門知識、技術の向上を図れるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の各施設との交流の機会を持つとともに、事業所の実践発表をするなどして理解を深めた。また、特養や在宅部門の各事業所との合同会議や異動などを通じ、サービスの質の向上を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居したばかりのご利用者には特に気を配り、利用者の声に耳を傾け、安心して生活できる環境作りや関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安・要望などにしっかりと耳を傾け、ご利用者が安心して、健康的に生活できるよう努め、ご家族が来園された際にはご利用者の日々の様子をお伝えし、安心していただけるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の段階でご家族・ご利用者双方からしっかりと情報収集を行い、ご利用者の抱えている課題を明確にし、必要な支援を行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の残存能力を見極め、施設での生活に自信・張り合いがもてるよう言葉がけに配慮し、ご利用者主体となって生活していただけるよう努めている。また、ご利用者に対し、人生の先輩であり、常に尊敬の念を持ち、接するよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連絡を取り合い、施設ができること、ご家族だからできることを考えながら、負担になり過ぎないように配慮しながら連携を取り合えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前、行っていたお店に買い物に行ってみたり、外出した際、知人の方に会うなどした際は、その時間を大切にしよう努めている。	家族は普段から気軽に訪れてくれますが、事業所でも衣類の入れ替えや買い物等をお願いして、顔を見せてもらえるよう工夫しています。以前から通う美容院に職員が送迎したり、地域のあじさい祭りには自宅が近くだという人と出かけたたり、小さなつながりも大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うご利用者同士、日々の生活行為を通じて互いに役割を持ち、助け合って生活が送れるような支援を心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームから特養へ移行されたご利用者に対し、定期的に面会などを行うとともに、スタッフに対しても情報提供などを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の言動や表情などをよく観察するように心掛け、ご利用者の思いを汲み取れるよう努めている。	入居の際にはセンター方式の一部に於ける作成を家族にお願いしています。生活リハビリに力を入れているからか、発言も多く、「NHKののど自慢を観たい～」との声には皆で沢山ハガキをだして、3名もの当選があって観覧が叶った例もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者・ご家族・関係事業所より情報収集を行い、ご利用者の人となりを理解し、職員間で共有を図り、安心して生活していただけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃よりご利用者を注意深く観察し、個々の能力を見極め、それぞれにできる事への言葉がけを行うとともに体調の変化の把握に努めている。また、職員間でご利用者に関する情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議の場でご利用者に関する情報を出し合い、その方に対し、最善の支援方法のあり方などを検討し、計画の作成に活かしている。	1表、2表が1枚となり一体化した独自の書面を使用しています。さらに、利用者一人ひとりに付く担当職員が2表の課題(ニーズ)に基づき、介護計画書を作成して、またモニタリング記載も明瞭で、全職員が介護支援専門員レベルの業務ができるようになっていて秀逸です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録には特記事項や気づきの項目を設け、職員間で、情報を共有するとともに、定期的に計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者・ご家族の思いを尊重し柔軟に対応できるよう努めている。(ご利用者の要望により、訪問マッサージを利用している)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りやさいと焼きなどの行事に積極的に参加し、地域住民の方と一緒に楽しんでいただけるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診の他、以前より通われているかかりつけ医への受診を希望されるご利用者に関しては、可能な限りご要望に添えるよう努めている。	本部の看護師が週1回投薬及び健康管理で訪れていて、月2回訪問診療のある協力医と密に連携をもち安心で、16名が変更しています。従来からのかかりつけ医を続ける2名については「生活記録」を家族に預け、医師の所見は家族を通じて口頭で事業所に入っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常にご利用者の様子に気を配り、変化が見られた場合は速やかに看護師に報告するよう努めるとともに、協力医の往診の際、相談できるように記録に残すなど、努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医の看護師・MSWと定期的に情報交換を図り、ご利用者が急変された際など、速やかに対応できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の状態の変化により、必要に応じてその都度、説明を行うとともに、ご家族の意向なども確認するように努めている。	開設から3年を経っていますが、未だ看取り実績はありません。契約では「看取りをおこなう事業所である」ことを家族に伝えており、家族からも「是非馴染んだ此处でお願いしたい」との声があります。職員は本部での勤務を経ている人が多く、大半が看取りに立ち合った経験があります。	(本部での看取りは看護師常駐のため)「看護師不在の看取り」は未経験であることから、本部看護師に看取り講座を企画してもらえよう、順次進めていくことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修に参加した職員による伝達研修(実技研修を含む)を行ったり、資料の読み合わせを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い、不測の事態に対応的確な対応がとれるように努めている。また、推進会議の場などで、災害発生時における協力依頼を行っている。	立地的に土砂崩れや津波の心配はなく火災と地震が課題ですが、地場も強固のため、主には火災を気に向け、夜間想定で2回実施しています。防災備蓄は5日分ほどあり、ローリングストックもいれたなら静岡県が示唆する7日に近い蓄えとなります。	消防署に立ち合ってもらってますが、助言が薄いとの印象があります。次回は「助言・指導を具体的にお願いしたい」とリクエストをすると、なおよいと思います。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者ひとりひとりの人格を尊重し、言葉遣い、言葉がけの仕方など十分に注意しながら関係作りに努めている。	エプロンをつけて意気揚々と食事の支度をしたり、その日のメニューのメモをとったり、また仲間の介助を手伝う人もいて、充分有用感を味わえている様子です。華道の先生だった人にはフラワーアレンジメントをお願いしたりと、生活リハビリが「その人への尊重」につながっています。	食事中にビニールエプロンでなかったことはよかったと思うものの、タオルに洗濯ばさみはやや残念です。クリップなど他の代替品への移行を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとつひとつの行動や表情の裏に隠されたご利用者の思いを読み取れる努めるとともに、ご利用者のご自分の思いを出せるような雰囲気作りに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	協力生活の中でも可能な限りご利用者ひとりひとりのペースを守りつつも孤立してしまわぬように支援しながら、その人らしく生活できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に身だしなみやおしゃれに気を配っていただけよう職員も言葉がけを行ったり、鏡を見ていただくよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事作りでは切る作業だけではなく、味付け・盛り付けなど互いに助け合いながらご利用者が主体となるように努めている。また、色とりどりの食材を使用し、見た目にも楽しんでいただけるよう配慮している。	職員と見紛う利用者もいるほど、支度や後片付けに活気があります。皆でつくった手料理に舌鼓を打ち、「今日の蜜柑は甘いね」と食材談義の花も咲き、笑顔もほころびます。90歳を超え、看取りも近いのではと目される人も食べることへの意欲満々で、自ら箸を運んでいました。	会話は笑い声はありますが無口な人もいますし、また静まりかえる時間帯もあったことから、BGMがあるとよいように思います。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取表をチェックし、職員間で連携しながら摂取量の少ない方には代替え品を提供するなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師・衛生士の指示のもと、毎食後、歯磨きや入れ歯の手入れを行っていただくとともに、ご自分で行うことが難しい方は仕上げ磨きを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンを把握し、時間で誘導したり、尿意のサインを見逃さないよう心掛けている。また、紙パンツから綿パンツへの移行支援も積極的に行っている。	入居後リハビリパンツから布パンツに向上した人が多く、維持向上を以て現在10名ほどが布パンツで過ごしています。居室にトイレがある人、2名で1つを使用する人、共用トイレを使う人と、トイレ環境に違いを設けた造りで、居室選びはできる限り希望に応じています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	もち麦や寒天ゼリーなど、食材提供を工夫したり、水分摂取量の把握・適度な運動などを通じ、可能な限り自然排便が行えるよう配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間や回数など可能な限りご本人の希望添えるよう努めている。	浴室内の床はコルク材の加工品が使われ、ヒンヤリ感を排除しています。週3回を目安としていますが、「毎日入りたい」との声にも応えています。シャンプー等消耗品は本人の好みを家族に用意してもらい、其々間違いがないようボックスに整然とセットされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日のご本人の様子をしっかりと観察し、状況に応じて居室などに休んでいたなど、安心して休んでいただける環境作りを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や追加になった際は、職員間で連絡を密にし、記録を残しながらその方の状態観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で得意なこと、好きなこと、楽しみなど、気分転換になることを取り入れ、張りを持って生活できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望に寄り添い、場合によっては家族と連携を取りながら外出支援を行い、季節を肌で感じていただけるよう努めている。	14時までパートタイマー職がプラス配置され好天日での散歩は定石です。また本部のリフト車輦を借りての遠出外出はムリがなく、山梨まで足を延ばす「ぶどう狩り」をはじめ「いちご狩り」「さくらんぼ狩り」は恒例行事となっています。最近は小人数でのおやつ外出も増えています。	生活リハビリが浸透して毎日やることがあることから、利用者にも日曜日があるとなおよいと思います。おやつ外出が休養日として発展していくことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをお預かりし、何か買いたい物があるときは一緒に買い物に行き、購入している。また、支払いができる方にはご自分で支払いをしていただくよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望があればご自分で電話をかけたり、ご家族から手紙が届けばお返事を書けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓・室内の温度・湿度に気を配るとともに、ご利用者皆さんで作った季節の作品や花などを飾り、のんびりとくつろいでいただけるような空間作りに努めている。	毎朝、居室トイレも含み共用空間の掃除を利用者と職員とでおこない、夜勤帯の職員が手すりといった清潔度に関してフォローしています。各所に温湿度計を置き、冬場は湿度60%を目指して加湿器を増やしていき、また食休みの時間帯は照明を落として、室内をはんまりさせています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ等を置き、気の合ったご利用者同士で座り、話ができるような空間作りを行うとともに、休憩時間には一人になれるように各居室で休んでいただけるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が安心して過ごしていただけるよう、馴染みの家具等がある場合は可能な限り持参していただくよう、ご家族に依頼している。	「観葉植物を育てるのが趣味の人は家族の持ち込みで増え、水やりも日課となっていますが、全体を通じて「持ち込みは少ない」状況にあります。足元が危ない利用者には事業所から家族へ提案し、滑り止め付のマットを購入した例もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の居室やトイレの場所に目印となる飾りや貼り紙をするなど工夫し、可能な限り残存機能を生かし、ごく普通の生活が送れるよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291200059		
法人名	社会福祉法人十字の園		
事業所名	御殿場十字の園 グループホーム笑みの里 羽衣ユニット		
所在地	静岡県御殿場市北久原578-3		
自己評価作成日	平成29年11月1日	評価結果市町村受理日	2017/20/20

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.mhiw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JiyosyoCd=2291200059-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日中、玄関等の施錠は行わず、どなたでも気軽に足を運んでいただき、のんびりくつろいで過ごしていただけるよう家庭的で温かい雰囲気作りをこころがけています。
また、「日々の生活を通じ”できることは自分で””ご利用者同士お互い助け合い””社会生活が安心して送れるよう”ご利用者個々の能力を見極めスタッフが過度に手を出し過ぎず、あくまでもご利用者が主体となり、日々の生活を送っていただけるよう、自分たちのケアを振り返りながらスタッフ一同、より質の高いケアを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

14時まで配置されたパートタイマー職のおかげで好天日の散歩は暮らしに溶け込み、玄関先で職員がせかされている格好からも「喜ぶ人と共に～」との理念実践が垣間見えます。また本部のリフト車輛を借りての遠出外出はムリがなく、山梨まで足を延ばす「ぶどう狩り」をはじめ「いちご狩り」「さくらんぼ狩り」が恒例行事となり、最近は少人数でのおやつ外出で個別対応も増えています。1表、2表が一体化した独自の書面を使用し、居室担当職員が介護計画書を作成しており、モニタリング記載も明瞭で、全職員の介護支援専門員レベルへの到達も見受けられ、職員が編んだ帽子を被る90歳余の利用者の様子を結実の確かさを感じます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に理念を復唱することで、共有と実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	天気の良い日は近隣へと散歩に出かけ、近所の方などに挨拶を交わしている。 また、毎日の買い物では、ご利用者の知り合いに会ったり、お店の方とも顔馴染み関係ができています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事へと積極的に参加するとともに、日課の散歩や買い物を通じて、地域住民の方と接する機会を設け、理解を深めていただくよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	PowerPointなどを活用し、日々のご利用者の生活の様子や取り組みを報告している。また、会議で挙げた意見は職員会議の場にて、職員に報告し、改善案などを検討している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービス提供事業所意見交換会などに参加し、当施設の実情を伝えるととも、市の見守りネットワークへと登録し、行方不明者の捜索などにも協力している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はせず、自由に出入りできるようにしている。また、内部研修などを通じ、職員全体で拘束ゼロに向けた取り組みを検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を通じて、虐待に対する理解と防止について学び、日々の業務にあたっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を実施し、日常生活自立支援事業や成年後見制度に関して学ぶ機会を設けているが、それらの制度を活用できるまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に利用料金・リスクマネジメントに関する内容はご家族・ご利用者の方に十分に理解・納得していただけるよう、時間をかけ、丁寧に説明を行うとともに、不明な点は気軽に問い合わせいただけるようお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族へはご利用者の日頃の様子などをこまめにお伝えし、信頼関係が築けるよう努めるとともに、ご家族・ご利用者が意見を言いやすい雰囲気作りにも配慮している。また、玄関には苦情受付箱を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている職員会議を通じて、職員の意見・提案を聞き、全員で検討し質向上への取り組みを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤・非常勤ともに就業規則を整備しており、これを遵守するとともに、ワークライフバランスを意識した育児介護休業規則を制定し、運用している。またさらに各自が意欲的に働けるよう順次見直しを予定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス基準を作成し、各階層別に研修を実施するとともに、資格取得支援など専門知識、技術の向上を図れるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の各施設との交流の機会を持つとともに、事業所の実践発表をするなどして理解を深めた。また、特養や在宅部門の各事業所との合同会議や異動などを通じ、サービスの質の向上を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居したばかりのご利用者には特に気を配り、利用者の声に耳を傾け、安心して生活できる環境作りや関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安・要望などにしっかりと耳を傾け、ご利用者が安心して、健康的に生活できるよう努め、ご家族が来園された際にはご利用者の日々の様子をお伝えし、安心していただけるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の段階でご家族・ご利用者双方からしっかりと情報収集を行い、ご利用者の抱えている課題を明確にし、必要な支援を行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の残存能力を見極め、施設での生活に自信・張り合いがもてるよう言葉がけに配慮し、ご利用者主体となって生活していただけるよう努めている。また、ご利用者に対し、人生の先輩であり、常に尊敬の念を持ち、接するよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連絡を取り合い、施設ができること、ご家族だからできることを考えながら、負担になり過ぎないように配慮しながら連携を取り合えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前、行っていたお店に買い物に行ってみたり、外出した際、知人の方に会うなどした際は、その時間を大切にしよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うご利用者同士、日々の生活行為を通じて互いに役割を持ち、助け合って生活が送れるような支援を心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームから特養へ移行されたご利用者に対し、定期的に面会などを行うとともに、スタッフに対しても情報提供などを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の言動や表情などをよく観察するように心掛け、ご利用者の思いを汲み取れるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者・ご家族・関係事業所より情報収集を行い、ご利用者の人となりを理解し、職員間で共有を図り、安心して生活していただけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃よりご利用者を注意深く観察し、個々の能力を見極め、それぞれにできる事への言葉がけを行うとともに体調の変化の把握に努めている。また、職員間でご利用者に関する情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議の場でご利用者に関する情報を出し合い、その方に対し、最善の支援方法のあり方などを検討し、計画の作成に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録には特記事項や気づきの項目を設け、職員間で、情報を共有するとともに、定期的に計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者・ご家族の思いを尊重し柔軟に対応できるよう努めている。(ご利用者の要望により、訪問マッサージを利用している)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りやさいと焼きなどの行事に積極的に参加し、地域住民の方と一緒に楽しんでいただけるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診の他、以前より通われているかかりつけ医への受診を希望されるご利用者に関しては、可能な限りご要望に添えるよう努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常にご利用者の様子に気を配り、変化が見られた場合は速やかに看護師に報告するよう努めるとともに、協力医の往診の際、相談できるように記録に残すなど、努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医の看護師・MSWと定期的に情報交換を図り、ご利用者が急変された際など、速やかに対応できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の状態の変化により、必要に応じてその都度、説明を行うとともに、ご家族の意向なども確認するように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修に参加した職員による伝達研修(実技研修を含む)を行ったり、資料の読み合わせを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い、不測の事態に対処的確な対応がとれるように努めている。また、推進会議の場などで、災害発生時における協力依頼を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者ひとりひとりの人格を尊重し、言葉遣い、言葉がけの仕方など十分に注意しながら関係作りに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとつひとつの行動や表情の裏に隠されたご利用者の思いを読み取れる努めるとともに、ご利用者のご自分の思いを出せるような雰囲気作りに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	協力生活の中でも可能な限りご利用者ひとりひとりのペースを守りつつも孤立してしまわぬように支援しながら、その人らしく生活できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に身だしなみやおしゃれに気を配っていただけよう職員も言葉がけを行ったり、鏡を見ていただくよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事作りでは切る作業だけではなく、味付け・盛り付けなど互いに助け合いながらご利用者が主体となるように努めている。また、色とりどりの食材を使用し、見た目にも楽しんでいただけるよう配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取表をチェックし、職員間で連携しながら摂取量の少ない方には代替え品を提供するなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師・衛生士の指示のもと、毎食後、歯磨きや入れ歯の手入れを行っていただくとともに、ご自分で行うことが難しい方は仕上げ磨きを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンを把握し、時間で誘導したり、尿意のサインを見逃さないよう心掛けている。また、紙パンツから綿パンツへの移行支援も積極的に行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	もち麦や寒天ゼリーなど、食材提供を工夫したり、水分摂取量の把握・適度な運動などを通じ、可能な限り自然排便が行えるよう配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間や回数など可能な限りご本人の希望添えるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日のご本人の様子をしっかりと観察し、状況に応じて居室などに休んでいただくなど、安心して休んでいただける環境作りを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や追加になった際は、職員間で連絡を密にし、記録を残しながらその方の状態観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で得意なこと、好きなこと、楽しみなど、気分転換になることを取り入れ、張りを持って生活できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に寄り添い、場合によっては家族と連携を取りながら外出支援を行い、季節を肌で感じていただけるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをお預かりし、何か買いたい物があるときは一緒に買い物に行き、購入している。また、支払いができる方にはご自分で支払いをしていただくよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望があればご自分で電話をかけたり、ご家族から手紙が届けばお返事を書けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓・室内の温度・湿度に気を配るとともに、ご利用者皆さんで作った季節の作品や花などを飾り、のんびりとくつろいでいただけるような空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ等置き、気の合ったご利用者同士で座り、話ができるような空間作りを行うとともに、休憩時には一人になれるように各居室で休んでいただけるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が安心して過ごしていただけるよう、馴染みの家具等がある場合は可能な限り持参していただくよう、ご家族に依頼している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の居室やトイレの場所に目印となる飾りや貼り紙をするなど工夫し、可能な限り残存機能を生かし、ごく普通の生活が送れるよう支援している。		